

# 令和6年度 第3回 学校運営協議会 議事録

令和7年3月10日（月）15時30分～17時00分

学校運営協議会委員（◎は会長、○は副会長、他は五十音順）

◎平野 周二（横浜市西区第5地区自治会連合会 会長）

○小島 由美（横浜平沼高等学校 校長）

皆藤 慎一（横浜平沼高等学校 同窓会真澄会 会長）

加藤 善浩（横浜西口エリアマネジメント事務局）籠田代理が出席

ジギヤン クマル タバ（かながわ国際交流財団 学術・文化交流グループ職員）

遠山 満（横浜市立岡野中学校 校長）

藤井 千春（早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授）

深山 由希子（横浜平沼高等学校 PTA会長）

脇本 健弘（横浜国立大学 教職員大学院 准教授） 欠席

## 本校職員

川上 司（副校長）記録

川崎 幸（教頭）司会

島崎 理恵子（事務長）

富田 泰夫（教務・情報グループGL（グループリーダー））

日野 裕紀（総務グループGL）

岡田 真弥（研究開発グループGL）

一柳 浩一（進路グループGL）

志方 大悟（生徒会グループGL）

石附 泰典（生活グループGL）

## ○ 開会

## ○ 学校運営協議会・評価部会

### 1 校長挨拶

前回の学校運営協議会以降、学校では入学者選抜や卒業式などを行ってきた。式へご参列に感謝申し上げる。大学入試の結果も続々入っている。部活動では大きなところとしてハンドボール部が全国大会に出場する。公立校で団体競技の全国進出は大変な偉業。部員は進学も頑張り、平沼らしさを出している。

目下の課題は教員不足。全県的な課題で、本校も2名足りない状況。時間講師で対応するが、学校は授業だけではない。スタート時から職員が足りない状況でどう対応するか、学校運営上の良い知恵をいただければと思う。

### 2 報告、連絡事項

#### （1）第2回学校運営協議会以降の教育活動について

岡田GLから、資料7（魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート回答結果）について、総じて良い結果だが「中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思うか」への回答が昨年度を下回っているため、新たに対策を立てたいとの報告があった。

富田GLから、ICTの利活用には対応できているが管理についても事故防止を徹底して行いたいとの報告があった。

石附GLから、本校には業者清掃員が入っているが、業者からゴミの出し方で迷惑しているとの指摘を受けており、今後の課題であるとの報告があった。

一柳GLから、京大合格や医学部3名合格など、この10年余りなかった成果をあげている、また東工大、東北大など地方の国公立大を受験した理系生徒がよい結果を出しているとの報告があった。

志方G Lから、ハンドボール部の他にも生徒主体で活躍する多くの部活動を顧問は支援していること、また合唱コンクール、横浜市会との対話を今週行うとの報告があった。

(2) 令和7年度入学者選抜結果

岡田G Lから、昨年度から始まったオンライン出願で419名の志願者があり、検査と調査書による選抜で319名の合格があったとの報告があった。

3 【協議】令和6年度学校目標校内評価について

(1) グループリーダーからの説明

ア 教育課程、学習指導について

富田G Lから、新教育課程に入って3年目となり、改善すべき点について各教科から意見を募り、必要に応じて委員会を立ち上げ対応する、また選択科目決定について、決定が早く変更要望の出る現状は改善が必要であるとの説明があった。

岡田G Lから、資料7では9割の生徒が1人1台端末活用の成果を認めていること、また残り1割の生徒への対応を今後行いたいとの説明があった。

イ 生徒指導・支援について

志方G Lから、資料5（令和6年度学校行事・部活動等の実績）のとおり、生徒の主体的な活動の結果として、大きな大会以外にも多くの部活動の名前が挙がってきていていること、また、横浜市会との協働イベントなどを含め、いろいろな機会に地域等との連携を図り、教育活動を深めたいとの説明があった。

石附G Lから、かながわ子どもサポートドックをきっかけにプッシュ型面談で積極的にアプローチできる状況があるとの説明があった。また、S SWの活動や出番が少ないこと、担任が行う生徒への確認やアプローチをSCはどう共有するかなどが課題であるとの説明があった。

ウ 生徒指導・支援について

一柳G Lから、スタディショップとHi-ゼミの整理、変更や週末課題の組織的な導入について説明があった。また、キャリア教育の観点から先輩セミナーを早期に開催し、進路別説明会とも連動させて対応するとの説明があった。

エ 地域等との協働について

日野G Lから、PTA会長からの協力もいただきPTA活動が活発化している、特に文化祭ではこれまでと少し違う形で盛り上げられたとの説明があった。また、来年度はさらに同窓会の皆さんの協力を得て活発にしていきたいとの説明があった。

オ 学校管理、学校運営について

石附G Lから防災に向けた取組として、体制整備のためマニュアルの整理し、また生徒には訓練や研修で意識を高めたとの説明があった。また、来年度以降は生徒が体験できる機会を増やし、できるだけ自分事として捉えられるようにしたいとの説明があった。

(2) 質疑及び委員からのご意見

ア 教育課程、学習指導について

・総合的な探究の時間の取組は？（藤井委員）

→ 1学年は今年度から3年間見通した新たな教材を導入し、今年度は探究技術を学ばせ、2年では地域研究、3年では大学の先の課題を考えさせる予定だ。（岡田G L）

・主体的・対話的で深い学びの実現に向けては具体的にどう取り組んでいるのか？（藤井委員）

→ 授業支援アプリを導入して1人1台端末を活用させ、自分達で学びを深めさせる取組がその一つだ。また、理科の実験を例に挙げると、生徒同士で話させて、実験方法や器具を決めさせているなどを試みている。（岡田G L）

資料4（生徒による授業評価集計結果）の項目3の数値を見るとこの半年で主

体的に学ぼうとする学習意欲の高まりがみられる。国語でもかなり意識して授業づくりをしている。ただ、自ら課題を見つけるのはなかなか難しいため、進路決定の根拠となるリソースを見つけさせ、作文で表現させるなど試みている。（志方G L）

- ・総合的な探究の時間をしっかりと頑張っていれば、思考力・判断力・表現力を高めることができたかへの回答数値は高くなろう。また、どんな生徒の姿をイメージしているかも重要である。自分の進路や課題が見つからないなどの対策も探究活動でできるはずだ。横浜西口は課題やテーマの宝庫であり、総合的な探究の時間と各教科がクロスする視点を持てば突破口が開ける。この分野には広く関わっているので、聞いていただければアイデアを提供したい。（藤井委員）
- ・まず「取組の内容」の書き表し方についてだが、手法だけでなく「目標」を受けての具体的な内容を書いていただくとよい。また、課題の発見についてだが、私はかながわ国際交流財団というところに所属している。困っている外国人のお世話が仕事だ。若いころから海外に目を向けるのも大事だが、国内、地域にも目を向けて課題を見つけ、考えることも大事だと思う。（ジギヤン委員）
- ・新しい教育課程にどう取り組むかは中学校でも課題となっている。職員研修を行って、準備していく必要がある。また対話的な学びやICTの活用については、手段が目的になってしまわないよう、目的をしっかりと持つ必要がある。（遠山委員）
- ・資料7の保護者の回答で、学校からの情報提供、相談できる環境、学校での活動に参加できたかの3つの質問の数値がかなり低い。授業参観などがない。子供たちの様子を間近で見られる機会をつくってほしい。（深山委員）

#### イ 生徒指導・支援について

- ・頑張っている部活動を応援してあげたいが、いつ、どこに行けばいいのかわからない。資料7の質問への回答内容にも関わるが、ぜひ部活動関係の情報提供をしていただきたい。（深山委員）

#### ウ 地域等との協働について

- ・私は西口エリアマネジメントというところに所属し、地域交流の振興を図っている。私の所属との関係でいえば、生物研究部の活動など、平沼高校生には活発に関わってもらっている。今後、さらに地域とのかかわりを深められるかが私たちは問われているのだろう。（籠田委員代理）
- ・「同窓会との連携を図る」とあるので、内情をお伝えしたい。卒業生の情報を広く収集したいが、最近は個人情報保護の高まりで、人づてでなければわからない。これまで同窓会組織は定年後の層を中心に活躍していたが、最近は退職年齢も上がり、オペレーションが課題となっている。このように同窓会自身がなかなか厳しい状況なのだが、なんとか連携を図り、学校に協力していきたい。（皆藤委員）

#### エ 学校管理、学校運営について

- ・4年間の目標には「災害に備え、職員・生徒・地域が協力して行動できる体制を整える」とあるが、平沼高校は補充的避難所に3階の体育館を指定しており、身体の不自由な方は上がれない。その場合の避難場所と、生徒の対応は？（平野委員）  
→ 避難場所は一応体育館となっている。生徒の対応は特に決めていない。生徒の避難については津波がないときはグラウンド、津波があるときは校舎棟の上階と決めてある。今後の課題とさせてほしい。（石附G L）

津波の場合はともかく、災害時の一時滞在施設として要援護者は1階の小ホールを使えるよう決めてあり、横浜市や自治会と確認している。（副校长）

- ・教員の不足が校長から挙がったが、平沼高校は教員志望者も多いと聞く。そういう生徒を引っ張りあげていくのが解決の一つとなるのではないか。（藤井委員）
- ・教員不足は私たち中学校も同じである。人が見つからないとなると、仕事内容に目を向けて、やるべき仕事かどうかの見極めも重要となる。（遠山委員）

#### 4 その他

任期1年ため、教育委員会に来年度委員の推薦をさせていただく。皆様に引き続きお願ひしたいので、ご事情がある場合はお知らせいただきたい。第1回目の学校運営協議会は6月下旬か7月上旬の予定。長期不在などの期間あれば事前にお伝えいただきたい。（副校長）

##### ○ その他の部会（扱ったテーマ、委員等から出た質問、意見等の概要）

###### 1 地域連携部会

###### 防災と地域連携について

- ・どう地域と高校が連携できるか、役割次第で運営の仕方が変わる。万が一の時の行動の仕方をもっと明確にしておきたい。
- ・生活グループとしても、連携面については整理できていないので、しっかり考えたい。
- ・災害時の生徒の帰宅のさせ方について、小中とはどう異なるのかを具体的に知りたい。
- ・災害時、高校生には困って避難してきた町民を助けていただきたい。中学ではその面の教育を実施している。高校の防災教育でも行うべきなのでは。
- ・平沼高校は地階の電気設備が心配だ。津波があったら恐らく電気は全面停電する。昔、津浪があったとき近くの川が逆流していた。

###### 安全教育と地域連携について

- ・PTAがグラウンド近くにAEDを設置した。有効に使われるべきで、生徒への教育や地域へ協力を求めるることは可能か。
- ・生徒は1学年全員授業の中でAEDを学んでいる。
- ・消防署にお願いすると協力が得られる。

###### その他の連携

- ・横浜西口エリアマネジメントでは定期的にワークショップを開催している。ぜひ参加を。
- ・125周年記念事業として広く協賛者を募っている。どの方も視野に入れた協働、例えば記念のお菓子づくりなどはできないものか。

###### 2 学力向上・グローバル教育部会

###### 探究活動の推進について

- ・東大の入試問題を見たが、今の世の中の課題についての認識がないと、問題が解けないようになっている。
- ・歴史教育を担当しているが、1年の歴史総合から始まって3年間学んでやっと完成する総合力を養うカリキュラムとなっている。その延長には教科横断的な教育課程があろう。
- ・教科を横断的に総合的な探究の時間に取り組む。違う教科と組んで二人で授業を行うと生徒も関心を示し、距離がずっと縮まる。
- ・実際に社会で働く人と接し、具体的な大人の姿を見て学ぶことも重要だろう。同窓会、西口エリアマネジメント、PTAなどいろいろなリソースを活用し、教員がすべて動くことはない。

###### その他

- ・先ほど授業参観の機会をとの意見があったが、学校としては全くOKだ。やり方として、学校が何とかするより、例えばPTAの学年委員会がリーダーシップをとって企画していただくと話が早いだろう。
- ・先ほどICTの活用について話題になったが、授業参観ではICTでこんなこともできるのかと保護者を驚かせるような演出があるといいのではないか。

##### ○ 閉会

本日は、お忙しいところ貴重な時間を割いていただき、委員に皆さんに感謝申し上げる。いただいたご意見は今後の教育活動で最大限生かしていきたい。（校長）